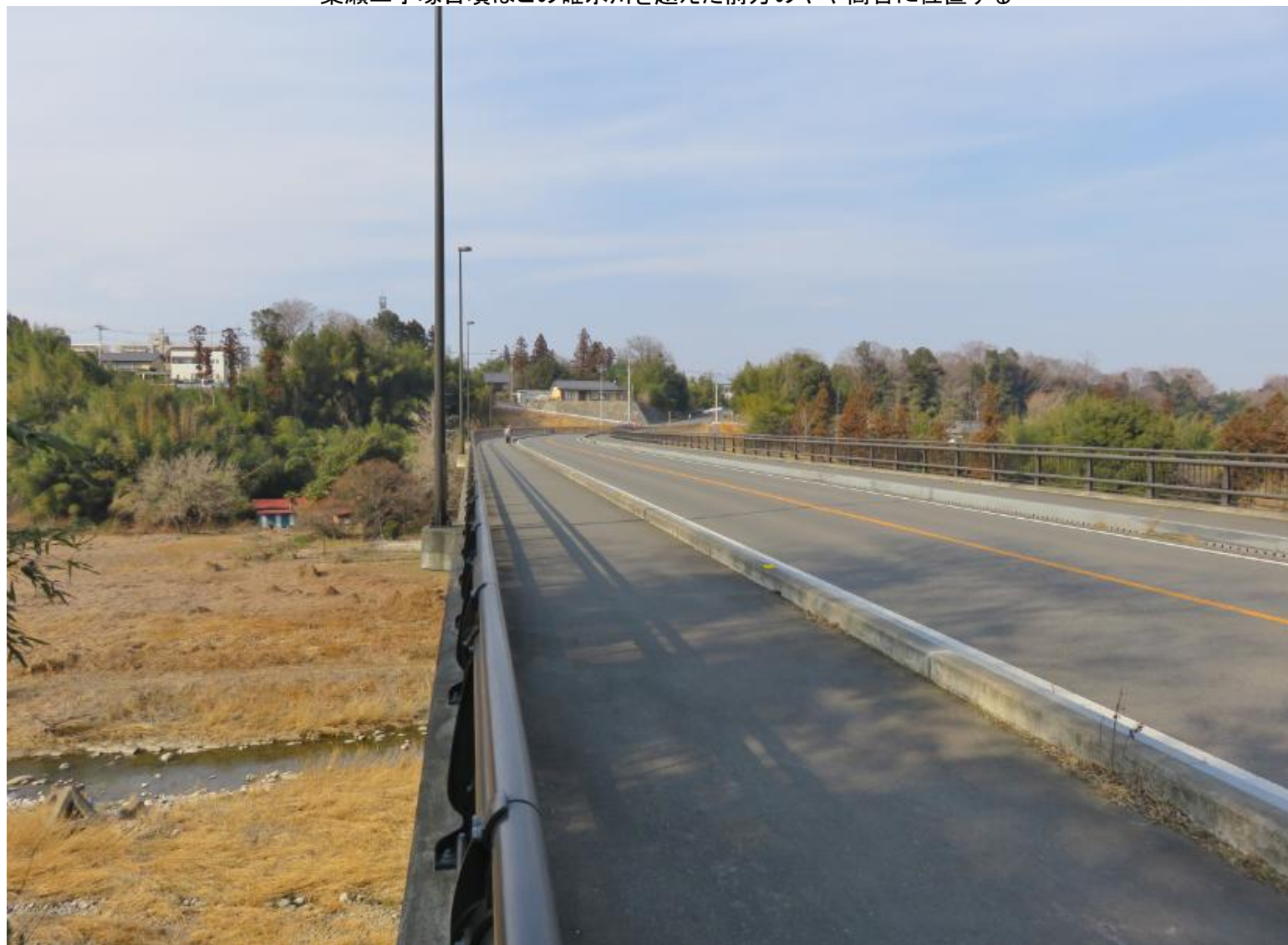


築瀬二子塚古墳(安中市)

築瀬二子塚古墳はこの碓氷川を越えた前方のやや高台に位置する



史跡公園の駐車場から正面に後円部を見たところ



アップで見たところ/綺麗な史跡公園として整備されている/階段の右手に「築瀬二子塚古墳」と記された看板がある



これは南側から見た築瀬二子塚古墳/2段築成の前方後円墳/6世紀初頭の築造



アップで見たところ/左手前が前方部、右奥が後円部/馬蹄形の周溝、外堤、外周溝が巡っている



南東側から見たところ/左手が前方部、右手が後円部/前方部の高さが後円部の高さに近い前方部の発達した墳形



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ/横穴式石室の入口が見える



説明坂がある



安中市指定史跡 築瀬二子塚古墳

所在地 安中市築瀬756番1ほか

指定 平成24年11月27日

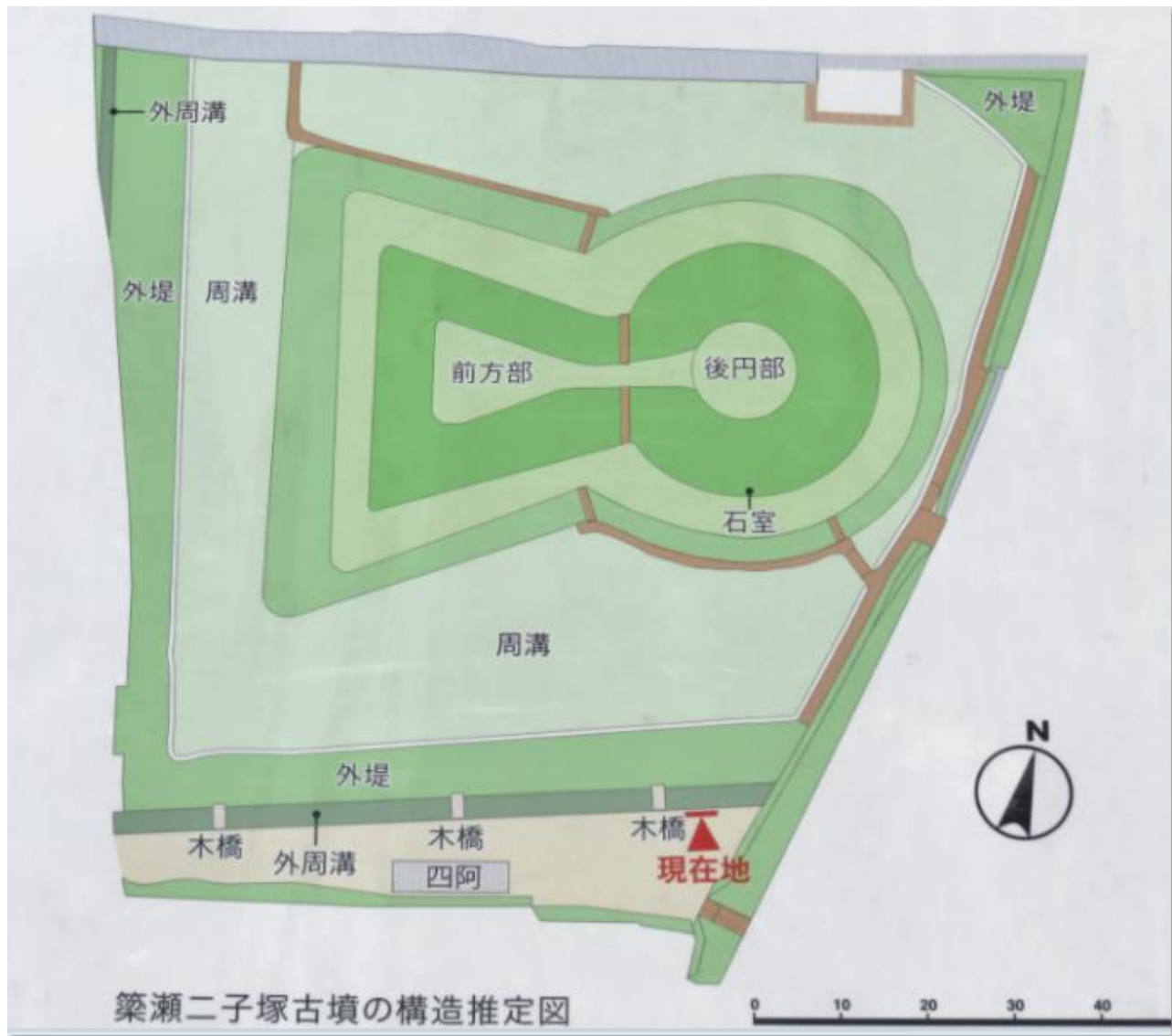
◆概要

築瀬二子塚古墳は、安中市域に初めて登場した大型前方後円墳で、古墳時代後期初頭（6世紀初頭）に築造されたと考えられています。この地域一帯を支配した有力者の墓と推測されます。

また古墳の埋葬部分は横穴式の石室が作られています。この横穴式石室は、上野地域さらには東国において、石室が竪穴式から横穴式へと移る最初の頃のものと考えられ、学術的にもとても重要な古墳です。

◆規模

2段築造の前方後円墳で全長約80メートル、後円部径約50メートル・高さ約8メートル、前方部幅約60メートル・高さ約7メートル、上野地域の古墳時代後期初頭（6世紀初頭）最大級の古墳です。



石室の壁石には赤色顔料(ベンガラ)が塗彩されているという

◆石室

全長11.54メートル 羨道長7.47メートル(幅0.67メートル～0.95メートル)、
玄室長4.07メートル(幅2.16メートル～2.32メートル) 高さ2.20メートル。
天井石には秋間石(溶結凝灰岩)が使用され、近くの碓氷川の川原石を使用
している壁石には赤色顔料(ベンガラ)が塗彩されています。

◆出土遺物

- 埴輪：円筒埴輪・形象埴輪(人物や馬など)が出土、墳丘第1段平坦面には埴輪列が確認されています。
- 副葬品：玉類(金箔ガラスの3連子玉・勾玉・水晶製丸玉など)、装身具(金銅製耳環など)、石製模造品(鎌・刀子・斧・白玉など)、武器類(鉄鏃・直刀・鉄小札)、馬具(杏葉・辻・金具など)、須恵器などが確認されています。

◆古墳の整備

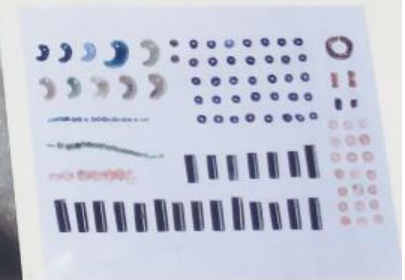
本墳は墳丘の残りがとても良かったため、古墳の保護を目的とした整備を行いました。墳丘の形状を変えることなく、古墳全体に盛り土を行う方法を用いています。



石室内部



金箔入り三連ガラス玉



装身具類

南西側から前方部を見たところ



右手に前方部から後円部を見たところ



左手に前方部から後円部を見たところ



西側から東方向に全景を見たところ



そこで南東方向に周溝を見たところ



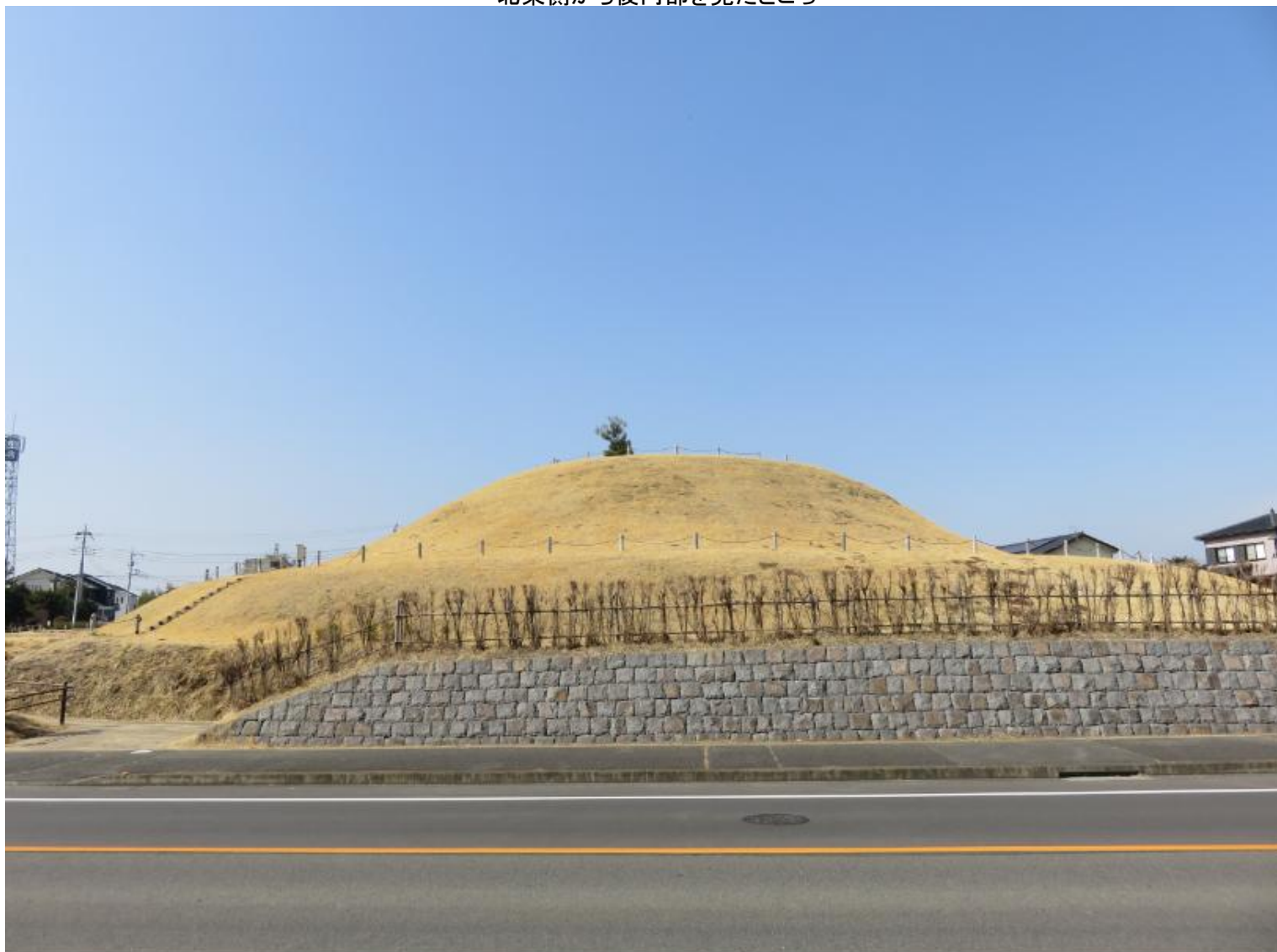
北側から南方向に全景を見たところ



そこで南西方向に周溝を見たところ



北東側から後円部を見たところ



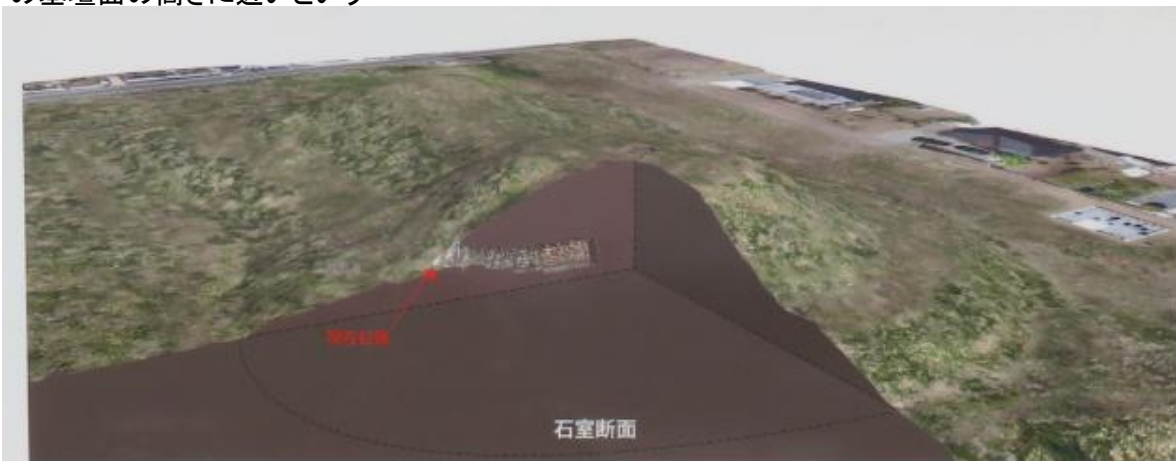
さて、横穴式石室を見てみよう



右手の配電盤に説明書きが貼ってある



石室の断面と展開写真/羨道部の床面は玄室へ向かって二段に低くなっている/玄室の床面は墳丘の基壇面の高さに近いという



ドアが閉ざされていて内部が見えない/上野地域、更には東国で、石室が竪穴式から横穴式へと移る最初の頃の古墳とされる



前方部から後円部方向を見たところ



反対側で前方部から後円部方向を見たところ



後円部から前方部方向を見たところ



さて、これは墳丘に登ってくびれ部から後円部を見たところ



後円部墳頂



北東方向を見下ろしたところ/下の道路は周溝であった部分/道路に面して神社の鳥居が見える



真下明神と記された額がかかっている/この地域は武田信玄の軍師山本勘助に関する古文書などを所蔵している江戸時代には土着していた真下家の所在地と云うことでその氏神らしい/武蔵七党の一つ児玉党に真下氏という一族がいるが・・・



塚のようなマウンドとなっている/築瀬二子塚古墳との関連はあるのだろうか



振り返って南西方向の前方部を見たところ



墳頂にはさまざまな石造物があった



こちらは石祠と明治十九年と記された布多古塚碑/黒田清綱という洋画家・黒田清輝の養父の銘文と云う



後円部から前方部を見たところ



そこで左手を見たところ/前方にも塚のようなマウンドが見える



アップで見たところ/このマウンドは旧原市町12号墳という円墳で、「築瀬八幡平の首塚」と云う安中市指定史跡の中世の首塚でもある



この辺りは武田信玄が築いた八幡平陣城のエリアで、築瀬二子塚古墳は物見台に利用されたとも云われる



同じく右手を見たところ



くびれ部から前方部を見たところ



ここが前方部墳頂



南西方向を見下ろしたところ/遠方は妙義山



前方部墳頂を南東側から北西方向に見たところ



前方部から後円部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



これは併設されたガイダンス棟



ガイダンス棟の内部



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/annaka_yanase/

http://www.sukima.com/31_usui08/105futago.html

<http://gunmahoyadi.cocolog-nifty.com/blog/2015/06/2-4662.html>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12330950494.html>

<https://blog.goo.ne.jp/noda2601/e/7454c78236a8399ad6de3c58ff893de6>

https://blogs.yahoo.co.jp/kamitukeno_k/58391546.html?_vsp=57CX54Cs5LqM5a2Q5aGa5Y%2Bk5aKz77vI5a6J5Lit5biC77vJ

<http://gpnotebook.gunmablog.net/e374910.html>

<http://tigerdream-no.blog.jp/archives/41442448.html>

